

# 観光再開本格化で活気

## 三陸復興国立公園が1周年

青森・岩手・宮城の3県にまたがる「三陸復興国立公園」は、設立から1周年を迎えた。域内では三陸ジオパークの認定や被災ホテルの営業再開、三陸鉄道全線再開など観光業の復興へ向けた動きが進んだ。震災後に960万人台まで落ち込んだ観光客入込数も、昨年度には1300万人台まで回復。域内の自治体で構成する三陸復興国立公園協会は「このほど、さらなる誘客を目指してPRキャラバンを行った。観光の再開本格化で活気

づく、各地の状況を紹介する。

宮城県気仙沼市では4月、震災前に年間100万人を集めていた魚市場直結の観光施設「海の市」がリニューアルオープンした。併設する「シャークミュージアム」は日本で唯一のサメ専門博物館。サメの水揚げ日本一を誇る同市ならではの見どころを目指す。7月には、地元海の幸を気軽に楽しめる飲食店や物販店も順次再開する。市内の店舗では、震災の影響で提供を中断していた

00以上の距離に、8月1日、観光物産施設がオープンする。駐車場や飲食店、売店を備え、被災状況を紹介します。併設の被災地ガイドツアーなどでの利用も見込む。周辺には類似施設がなく、観光拠点として期待される。

製鉄の街・釜石市では、日本最古の現存洋式高炉跡「橋野高炉跡」を「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産登録しようという動きが進む。7月には国際記念物遺跡会議の現地調査が行われる。登録に向けた手ごたえは十分だという。JR釜石線では花巻駅―釜石駅間で、宮沢賢治の世界観をモチーフにした「S.L.銀河」が4月に運行を開始し、人気を集めている。

「気仙沼ふかひれ井」も復活。井を覆う特大サイスのフカヒレ姿煮に圧倒される。価格は5千円台になる見込み。

岩手県沿岸を走る三陸鉄道は今年4月、宮古から久慈を結ぶ北リアス線の小元駅―田野畑駅間が

復旧したことにより全線再開した。4―6月に就航した花巻空港―台北間の定期チャーター便の影響もあり、台湾からの入込客が増えたという。同便は10月下旬からの再開で調整が進んでおり、今後も台湾からのインバウンド客に期待できそうだ。6月には外箱を切符として利用できるキットカット「切符カット」も発売され、国内の個人旅行者に向けたアピールも進めている。

全長12キロにわたって天然芝や海浜植物、鳴き砂の広がる浜など多様な表情を見せる青森県八戸市の種差海岸には、7月12日、「種差海岸インフォメーションセンター」が開設される。三陸復興国立公園内を縦断する自然遊歩道「みちのく潮風トレイル」の利用者への情報提供や、体験型プログラムでの活用が期待される。隣接地には売店なども設置され、海岸散策の利便性が向上する。



一本松から約5

岩手県沿岸を走る三陸鉄道は今年4月、宮古から久慈を結ぶ北リアス線の小元駅―田野畑駅間が

復旧したことにより全線再開した。4―6月に就航した花巻空港―台北間の定期チャーター便の影響もあり、台湾からの入込客が増えたという。同便は10月下旬からの再開で調整が進んでおり、今後も台湾からのインバウンド客に期待できそうだ。6月には外箱を切符として利用できるキットカット「切符カット」も発売され、国内の個人旅行者に向けたアピールも進めている。

本紙にもキャラバン隊が来社

一本松から約5

岩手県沿岸を走る三陸鉄道は今年4月、宮古から久慈を結ぶ北リアス線の小元駅―田野畑駅間が

復旧したことにより全線再開した。4―6月に就航した花巻空港―台北間の定期チャーター便の影響もあり、台湾からの入込客が増えたという。同便は10月下旬からの再開で調整が進んでおり、今後も台湾からのインバウンド客に期待できそうだ。6月には外箱を切符として利用できるキットカット「切符カット」も発売され、国内の個人旅行者に向けたアピールも進めている。